

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 6

学校に協働の文化を創り出す3S(切磋琢磨・率先垂範・組織力で磨き合う)チーム北の取組

赤警市立山陽北小学校

## 1 はじめに

本校は、若手教職員が増加し、落ち着いた学習環境や質の高い授業の実施、学習規律の徹底など、教職員の資質能力の向上を図る必要がありました。そこで、全員がチーム北小として一丸となり、教師力や学校力を高め、学力向上をめざすことに取り組みました。

などに積極的に取り組みました。

## 2 本校の取組

### (1) 自主公開授業研究発表会

平成26年度より自主公開授業研究発表会を実施し、互いに切磋琢磨して授業力を磨き合う機会を設定しました。そして、校内研究では、研究主任(指導教諭)を中心に、ポトムアップの組織的な研究体制を構築し、岡山型学習指導のスタンダードを基にした授業づくりや学力向上



自主公開授業研究発表会

### (2) OJTチーム研修

OJTチーム体制の趣旨を生かした学年団を構成し、教員の指導力向上に努めました。また「楽習会」と称したOJT研修を研修担当(主幹教諭)が企画・実施しました。若手と中堅・

ベテラン教員が、それぞれ教科指導や学級経営の悩みを出し合い、語り合うことで、教職員の資質能力を向上させる場となりました。

### (3) 指導の重点と3部会

本校の指導の重点を「あいさつ」「そうじ」「しせい」とし、教職員が3部会に所属しました。そして、各部会が共通理解のもとに、徹底した実践・指導を行うことで、より規律のある落ち着いた学校生活が実現しました。



児童会のあいさつ運動

### (4) ボランティア支援

学校支援ボランティア「かがやきクラブ」が発足5年を迎え、コーデイネーター5名を含む約80名のボランティアの方々、学校教育活動の様々な場面において児童の豊かな学びを支えてくださっています。

## 3 おわりに

こうした取組により、若手教員に自主的・主体的な研修姿勢が育ち、それに伴って中堅・ベテラン教員も刺激を受けて、授業力向上を目指すなど、学校組織が活性化しました。その結果、全国学力・学習状況調査では、国語・算数で全国平均を上回るなど、学力向上や規律ある落ち着いた学級集団づくりに大きな成果がありました。

今後も、新たな教育課題に対してチーム対応を基本とし、個々の専門性を生かした対応ができるように取り組みを継続し、教師力やチーム北小の学校力向上を目指していきたいと考えています。

(前年度校長 市川 恵美子)

# 落ち着いた学習環境づくり 集団の育成の取組

総社市立常盤小学校

## 1 はじめに

本校は、全校児童799名、通常学級24学級、特別支援学級5学級の大規模校です。周りには、たくさん商業施設があり、土地区画整備で多くの家屋が今なお建設されています。それに伴い児童数も年々増加傾向にあり、2年後には850名を超える勢いです。

## 2 課題

このような環境の中で、数年來抱えてきた本校の課題は、概ね3つでした。

①あいさつ、廊下歩行、靴揃え等の基本的な生活習慣の定着が不十分であり、集団としてのまとまりが希薄

②基礎的・基本的な知識・技能

## 3 取組の概要

③地域のうちの学校として、家庭や地域との連携づくりが困難



靴揃えが徹底された靴箱

課題①については、生徒指導主事を核に、「チーム常盤」として、全教職員が共通理解し、徹底した指導を行いました。靴揃えや掃除等がなげなかつた児童には、個別指導を丁寧に行い、守れるまで見守りました。現在では、靴は児童自らが揃え、全員が気持ちよさを感じています。

課題②については、「魅力ある授業づくり推進事業」を活用しました。また、「岡山型学習指導のスタンダード」を徹底しました。さらに、協同学習を取り入れることにより、人間関係づくりと学習内容の質的向上も図ってきました。

課題③については、公民館長をコーディネーターとして任命し、地域支援ボランティア活動を推進しました。懇親会などを通して、学校と地域が関わり合うことの大切さを教職員自身も実感するようになってきています。

## 4 おわりに

落ち着いた学習環境は、よりよい人間関係の上に成立します。総社市全体の取組である「だれもが行きたくなる学校づくり（品格教育・協同学習・SEL・ピアサポート活動）」を基盤にして、今後も安心安全な学校づくりを進めていきたいと思えます。

(前年度校長 板鼻 一祥)



よりよい人間関係づくりにつながる協同学習

自尊感情を育み、自他を思いやることの  
できる児童の育成をめざして

新見市立西方小学校

1 はじめに

赴任時、問題行動もあり、学校に課題があると感じました。児童について、教職員にアンケートをすると、

「落ち着いた行動ができない」「思いやりが欠ける言動が多い」「注意されても素直に聞けない」「学習習慣がついていない」「基本的な生活習慣が身につけていない」など、多くの課題があげられました。

そこで、職員の目的意識を明確にし、協働して学校の課題（児童の課題）に取り組めるよう、徳・知・体の3つの柱を設けました。

2 取組の概要

27年度は、《徳》の課題に重点を置き、特に「児童にあるがままの自分を受け入れ、かけが



笑顔いっぱいの人権集会

えのない存在として認める感情」《基本的自尊感情》の育成を中心とした教育を行いました。具体的には、授業や行事等での児童のめあてを明確にし、集団での体験を充実し、達成感や課題意識などを共有する場を意図的に取り入れました。活動後、教師は適切な評価をし、児童の良いところを積極的に称揚するように努めました。

その他に、学校生活や授業などにスモールステップのめあてを持つて取り組むこと・児童終礼等で児童の良い姿を評価し、自己肯定感を高めること・朝のあいさつの励行・校長の詩（生き方・考え方を考えさせる内容）を毎月掲示板上に掲示し、児童が感想等を書くことなどに取り組みました。

《知》では、統一した学習規律の徹底・読書活動の充実・基礎基本の確実な定着・学習の引きや「家読」での、保護者の啓発など、《体》では、児童の基本的な生活習慣の定着のための「げんきっ子カード」の取組・新見公立大学の教授による講演会の実施などを行い、保護者や児童に、生活習慣の大切さを伝えていきました。

28年度は、前年度の取組を更に推進し、《知》「主体的な学びができる児童の育成」を中心に、授業のユニバーサルデザイン化や、授業実践を中心としたKJ法による校内研修の充実を行いました。

3 おわりに

今、児童は、学習に集中できるようになり、思いやりのある行動を見せてくれるようになりました。27年度当初、多かった問題行動は、なくなりました。

校舎内を歩いて、全ての学級の授業の様子を見ると、どの学級も集中して学習しています。教師の声も小さくなりました。子どもたちの穏やかで素直な目がそこにあります。子どもたちが未来へ力強く歩んでいるように思えます。

（前年度校長 小林 義宏）



学び合い学習の様子



教職員の協働による落ち着いた  
学習環境づくり

倉敷市立南中学校

1 はじめに

本校は、全校生徒数1091人、教職員数82人、県下一のマンモス校です。この度、教職員の協働による落ち着いた学習環境づくりの取組が認められ、「頑張る学校応援事業」の優良実践校に選ばれました。まことに光栄なことであり、とてもありがたく思います。

2 教職員の協働：「チーム南」

(1) 学力向上への取組

教員は授業を第一と捉え、南中スタンダードに基づいて、全教員全教科で授業改善に取り組んでいます。授業改革推進員と研究主任を中心に、若手教員への助言等、人材育成にも積極的です。校内研修のテーマは、主体的な学習。研修も深まっています。



数学の授業

(2) 生徒指導

生徒指導の基本的な考え方を教職員全員で確かめ、共有しています。生徒指導主事を要に、各学年の担当が中心になって、教職員一人ひとりが自分の持ち場、持ち味を大事にしなが、常に組織としての対応を心掛けています。「すぐにその時、その日のうちに」が徹底され、報

3 成果

生徒は学ぶことが本分であるということを当たり前と受け止めます。また、学校を挙げて、防災・減災学習に取り組んでいます。体育会での千人の笑顔の入場行進は美しく、感動を呼びました。合唱コンクールは、各学年予選三位までの9クラスで決勝が行われ、魂の歌声が体育館に響きました。部活動の活躍も



体育祭での入場行進

告・連絡・相談ができています。学校の勢いになり、地域の喜びになっています。

4 終わりに

応援費の一部を使って、「卒業生に学ぶ会」を開催しました。南中学校第37期生で、バルセロナオリンピックにバレーボール日本代表として出場した南克幸選手に、バレーボール部で活躍した中学時代やその後の人生を語っていただきました。故郷や学校を誇りに思う気持ち、真摯な生き方が伝わってきました。

本校の教育は、校訓「南中魂 勉学 根性」に集約されると言えます。一生懸命勉強する生徒であってほしい、粘り強く頑張る生徒になってほしいという願いです。生徒は、この力強く、分かりやすい校訓が大好きです。「南中魂」という校訓には、創立以来70年の伝統と、二万人を超える卒業生の母校への思いが込められています。生徒も、南中学校という脈々と続く歴史の町角に立つ一人です。大きく成長してほしいと願っています。

(前年度校長 市坡よし子)



## 地域協働学校を中心とした 中学校区の学校園連携

岡山市立中山中学校区

### 1 はじめに

本中学校区では、平成16年度から地域協働学校体制の取組を進め、12年間が経過しました。めざす子どもの姿として、「笑顔であいさつ、進んで学び、みんなのために働く子」のキャッチフレーズを、地域協働学校連絡会において共通理解しています。各校園においても、重点目標として共有し、学校園・家庭・地域社会が一体となって取組を推進してきました。

### 2 取組の概要

#### 充実

「学力向上の基盤となるのは、日々の授業である」との認識を深め、「育てたい力」を中学校区で一貫して捉えました。そして、「0から15プロジェクト」として「学びの系統表」を作成しました。「話す」「聞く」を中心とした、主にコミュニケーション力にかかわる系統を捉えることから始め、

学習面での保幼小中連携を図っています。連携にかかわる授業公開も計画的に確実に実施し、協議の場には全員出席できるように、教育課程に位置づけています。

また、主体的な学習活動をめざし、各学校で、「学び合い」の手法を研究したり、思考ツールを活用したりして、思考力・判断力・表現力の育成に努めています。



テレビに映して話し合いの結果を説明



グループでの学び合い

さらに、教育機器の活用により、「わかる授業」づくりの実践もしています。

### (2) 生活改善に向けた取組の充実

中学校区では、生活改善も、学力向上の「鍵」であるという共通認識のもと、子どもの生活面の課題に対して、「生活の系統表」を設定しました。学びを支える取組として、「生活習慣」「家庭学習」「メディアアカウントロールチャレンジ」の3つの視点で、保幼小中が連携して、取組を進めています。特に、「メディアアカウントロールチャレンジ」は、中学校のテスト期間に合わせて、すべての学校園で実施しています。取組の成果を公表し合い、マンネリ化にならないように、保護者の声も聞くなどし、継続させていく予定です。また、「生活習慣」では「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、養護教諭を中心に取組の方法を協議しています。保健だよりによる啓発活動や、健康に関する学習実践および状況調査等を毎年くり返すことで、指導の積み上げを図り、保幼小中の一貫した取組になるように配慮しています。

### (3) 「夢づくり」に向けた取組の充実

また各校園では、地域協働学

校連絡会の活動の柱として、年間1〜2回、「夢づくりノート」を活用しています。ノート(シート)には、自分のよさを、自分や保護者・先生が認めたり励ましたりする枠や、よさを生かして「夢」へとつなげていけるようにした枠を設けています。子どもが将来の夢をもつことで、学習意欲の向上や生活改善につなげていくために行っています。成長に伴う「夢への思い」を経年記録できるように、ノートは保護者が保管しています。さらに、先の生き方にあこがれをもつことができるように、職業人を講師として招聘したり、子どもたちに自己の歩みを語っていただく機会をもつ取組も行ったたりしています。

### 3 おわりに

中学校区の学校園が、同じ重点目標で「育ちの姿」をめざし、共通した取組の実践を重ねていくことは、子どもたちの学力向上や、豊かな心を育むためには、重要なことです。今後も、地域協働学校中学校区連絡会と連動しながら、各校園の個性も充実させ、地道な積み重ねを大切にしていきたいと考えています。

(馬屋下小学校長 高田 恵子)